

再発又は難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫  
 ポライビー+【点滴静注液】トレアキシソリン+リツキサン(PolaBR)併用療法

催吐リスク  
**中等度**  
 放射線併用なし

投与プロトコール 1コース 21日間 6回 《開始時基準 PS:0~2 年齢:20歳以上》		投与量	投与日	投与時間	備考
<b>1コース目</b>					
ルートKeep	生食	500mL	Day1,2,3	-	※1 リツキサンの前投薬としてのステロイド投与は患者毎に考慮する
プレメディ/内服	抗ヒスタミン剤 + 解熱鎮痛剤 <sup>※1</sup>		Day1,2	30分前	
①	<b>リツキサン 375mg/m<sup>2</sup></b> 生食で1mg/mL以下の濃度に調製	mg	Day1	添付文書参照	※2 患者の状態に応じてNK1受容体拮抗薬投与を考慮する
プレメディ	5-HT3受容体拮抗薬+デキサメタゾン+生食100mL <sup>※2</sup>		Day2,3	30分	
②	<b>ポライビー 1.8mg/kg</b> 30mg/Vを注射用水1.8mL、140mg/Vを注射用水7.2mLで溶解 →溶解液濃度20mg/mLとし、0.72-2.70mg/mLになるように下記希釈液に混注 □体重45kg以上:生食100mL □体重21kg以上~45kg未満:生食50mL	mg	Day2	90分	
ポライビー投与終了後30分経過してからトレアキシソリンの投与を開始する					
③	<b>トレアキシソリン :90mg/m<sup>2</sup></b> □ 生食 50mL □ 生食(250-トレアキシソリン注入量)mL	mg	Day2,3	10分 1時間	トレアキシソリンの投与時間に応じて、以下の通り希釈すること
<b>2コース目以降</b>					
ルートKeep	生食	500mL	Day1,2	-	※1 リツキサンの前投薬としてのステロイド投与は患者毎に考慮する
プレメディ/内服	抗ヒスタミン剤 + 解熱鎮痛剤 <sup>※1</sup>		Day1	30分前	
①	<b>リツキサン 375mg/m<sup>2</sup></b> 生食で1mg/mL以下の濃度に調製	mg	Day1	添付文書参照	※2 患者の状態に応じてNK1受容体拮抗薬投与を考慮する 前コースでポライビーによるInfusion reactionを認めた際は、抗ヒスタミン剤、解熱鎮痛剤の内服を考慮する
プレメディ	5-HT3受容体拮抗薬+デキサメタゾン+生食100mL <sup>※2</sup>		Day1,2	30分	
②	<b>ポライビー 1.8mg/kg</b> 30mg/Vを注射用水1.8mL、140mg/Vを注射用水7.2mLで溶解 →溶解液濃度20mg/mLとし、0.72-2.70mg/mLになるように下記希釈液に混注 □体重45kg以上:生食100mL □体重21kg以上~45kg未満:生食50mL	mg	Day1	下記参照	
ポライビー投与終了後30分経過してからトレアキシソリンの投与を開始する					
③	<b>トレアキシソリン :90mg/m<sup>2</sup></b> □ 生食 50mL □ 生食(250-トレアキシソリン注入量)mL	mg	Day1,2	10分 1時間	トレアキシソリンの投与時間に応じて、以下の通り希釈すること

- ◆ポライビーは、初回投与時は90分かけて投与し、忍容性が良好であれば2回目以降の投与時間は30分間まで短縮できる。
- ◆リツキサンは1mg/mL以下の濃度で投与を行う。また、投与24時間以内に現れやすいinfusion reaction(発熱、悪寒、頭痛等)を軽減させるため、投与の30分前に抗ヒスタミン剤、解熱鎮痛剤等の前投与が必要。
- ◆初回投与時はポライビーとリツキサンの同日の投与は避けること。
- ◆ポライビーによるinfusion reactionを軽減させるために投与の30分~1時間前に、抗ヒスタミン剤、解熱鎮痛剤又は副腎皮質ホルモン剤の前投与を考慮すること。
- ◆ポライビーは、下記に従い、希釈後の濃度が0.72mg/mLから2.70mg/mLになるように調製する。  
 体重45kg以上の患者では生食100mLに混注する。  
 体重21kg以上~45kg未満の患者においては、生食50mLに混注する。  
 体重21kg未満の患者においては、希釈後の濃度が0.72mg/mLから2.70mg/mLになるように生食量を調整する。